



令和6年8月9日

大竹市教育委員会  
教育長 小西 啓二 様

大竹市教科用図書選定委員会  
会 長 小 田 大 介

大竹市立中学校用教科用図書採択のための調査研究について（答申）

令和6年5月28日付けで諮問された事項について、別紙のとおり答申します。

○大竹市立中学校用教科用図書採択のための調査研究について

**大竹市立中学校用教科用図書採択のための  
調査研究について（答申）**

**大竹市教科用図書選定委員会**

**令和6年8月9日**

## 令和7年度使用教科用図書調査研究の観点について

### 1. 教科用図書調査研究の観点

- (1) 知識及び技能の習得  
教科の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにするために、内容の精選及び創意工夫がなされているか。
- (2) 思考力、判断力、表現力等の育成  
既得の知識及び技能を活用したり、目的、場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合ったりするなど学習内容の工夫がなされているか。
- (3) 主体的に学習に取り組む工夫  
問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れ、児童生徒の興味関心を生かし、自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。
- (4) 内容の構成・配列・分量  
学習指導を効果的にすすめる上で、適切な内容の構成・配列・分量となっているか。
- (5) 内容の表現・表記  
さし絵・地図・図表などの資料やQRコードのアクセスによる動画や音声などのデジタル教材が有効に使われるよう配慮されているか。

#### 《参 考》

中学校教科用図書の種目

全種目
-----

### 2. 調査研究・報告にあたっての留意点

- (1) 全発行者の教科用図書について調査研究し、報告する。
- (2) 1発行者の教科用図書について、必ず複数の調査員で調査研究をする。
- (3) 教科用図書調査研究の観点に基づく各教科・各種目別の具体的な調査研究の視点については、各調査員（会）において定める。
- (4) 報告書及び要約の作成については、発行者の長所だけでなく、課題と思われる点についても報告すること。
- (5) 英語においては、紙の教科書に加え、学習者用デジタル教科書について調査研究し、報告する。

大竹市教科用図書選定委員会答申整理表

※「発行者」の欄は、教科書目録により略称を記入。

種 目	発行者	選定委員会意見（要約）
国 語	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「てびき」があり、学習の見通しも立てやすく、生徒自身が主体的に学習できるようになっている。</li> <li>・全体として分かりやすい工夫がされており、資料やデジタルコンテンツも豊富である。</li> </ul>
	三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの道しるべ」や「読み方を学ぼう」で、生徒自身が主体的に学習できるようになっている。</li> <li>・学び方を学ばせる工夫がされている。</li> </ul>
書 写	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の構成において、「目標→みつけよう→確かめよう→書写のかぎ→生かそう→振り返ろう」となっており、学習の見通しがもちやすい。</li> <li>・動画だけでなく、音声による説明があるので、どの生徒にも分かりやすいものとなっている。</li> </ul>
社 会 (地理的 分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用を念頭に置いた教科書作りになっている。</li> <li>・単元を通して、力を身に付けさせる工夫がある。単元でつけたい力を身につけさせる為の構成となっている。</li> <li>・地域を学習するページで、広島について学ぶ内容がある。</li> </ul>
社 会 (歴史的 分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・右ページ横の年表で、時代感覚を捉えやすい。</li> <li>・他の分野との関連を示すマークがあり、カリキュラムマネジメントを意識した構成になっている。</li> </ul>
社 会 (公民的 分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章の初めや章末に、学習の意欲を高める工夫がされている。</li> <li>・章の初めに、「導入の活動」が設定されており、学習の見通しを持たせるとともに、探究課題へと繋げている。章末の「振り返ろう」では節の問いを解決する活動を通して、主体的に学習に取り組む工夫をしている。</li> <li>・生徒たちに学んだ喜びを持たせられる。</li> </ul>
地 図	帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥瞰図がある事で、分かりやすく、地図としての機能を果たしている。また、地理的な認識が深まる。</li> <li>・小学校からの流れも意識されており、分かりやすくなっている。</li> <li>・読みやすい索引により、検索できる。</li> <li>・大陸から見た日本を示す地図が描かれている。</li> </ul>

種 目	発行者	選定委員会意見（要約）
数 学	学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方を説明する問題は、考えを説明するためにどんな表現が必要なかわかりやすいよう、穴埋めの形式になっていたり説明のモデルが示されたりしている。証明の進め方について細かく説明があり、1つの問題を例にして、図を使って根拠となることがらがまとめられている。</li> </ul>
	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒目線でいうと分かりやすい。</li> <li>・「深い学びのページ」では、生徒が問題解決の進め方を意識しながら取り組めるよう、問題発見・解決の過程が具体的な活動で示されている。また、生徒の思考を深めることができるよう、図や式を使って自分の考えを説明し伝え合う活動とともに、多様な考えを認めたり、共通点や相違点を見つけたりする活動が設定されている。</li> </ul>
理 科	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学習できる工夫がある。</li> <li>・探究課題に対する結論がまとめやすい。</li> </ul>
音 楽 （一般）	教芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目安となるものが示されており、生徒自身が学習を理解しやすい。</li> <li>・創作意欲がわく工夫がされている。</li> <li>・絵や写真、QR コードの内容も分かりやすい。</li> </ul>
音 楽 （器楽合奏）	教芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の学校に伝統的に根付いているリコーダーを取り上げている。</li> <li>・縦譜があり分かりやすい。日本の伝統的な音楽も内容として掲載している。</li> <li>・日本の伝統が多く掲載されており、縦譜があるのがいい。タンキングや姿勢に多くページを割いている。</li> </ul>
美 術	光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊を用いて、学年を超えて、基礎基本をいつでも学ぶ事ができる工夫がある。</li> <li>・金屏風の質感もよく分かり、見開きで分かりやすい。</li> </ul>
保健体育	学研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れが示されており、主体的な学びができる。</li> <li>・学習を通してウェルビーイングの実現に繋げるように構成されていて、考える力を伸ばす工夫がある。</li> <li>・デジタル教科書に合わせたUD フォントとなっている。</li> </ul>
技術・家庭 （技術分野）	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容の「ふり返ろう」で、技術の最適化について記載している。</li> <li>・「豆知識」があり、実生活に活用する工夫がされている。</li> <li>・QR コードの読み取りで、先生は指導がしやすく、生徒は学びやすい内容となっている。</li> </ul>
技術・家庭 （家庭分野）	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習の写真が分かりやすく、生徒の意欲がわくつくりとなっている。</li> <li>・振り返りが主体的にできる工夫がされている。</li> <li>・各題材をテーマに6テーマの参考例が掲載されており、非常に分かりやすい。実生活に繋げて考える工夫がされている。</li> </ul>
英 語	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツが充実しており、自己学習ができる工夫がある。</li> <li>・単元の目標が明確で、学びやすい工夫がある。</li> </ul>

種 目	発 行 者	選定委員会意見（要約）
道 徳	日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い、考え、議論する視点での教科書作りとなっている。</li> <li>・いじめの問題に対して、多面的、多角的に見ていき、これからの社会で遭遇するであろう問題の提示がされている。</li> <li>・別冊の道徳ノートで、記録や振り返りができる工夫がされている。</li> </ul>

## 中 学 校 国 語

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢字道場」や「文法解説」では、説明と具体例・問題が2段の表記になっている。また、情報量も精選されている。</li> <li>・書くことの単元では、例題とは別に課題が示されている。自分で立場を選択したり、資料を活用して意見を表現したりする課題も各学年に一つ以上ある。</li> <li>・「書くこと」「話すこと」の領域の題材と「読むこと」の領域の題材とを関連付けた単元が複数ある。</li> <li>・自分の必要に応じて参照できるさまざまな資料をデジタルコンテンツとして用意している。</li> <li>・デジタルコンテンツを利用しやすいように、QRコードとともに、どのような資料があるか細かく示されている。</li> <li>・教材の最初にイラストによって学習の核となる「問い」が用意されており、問いの意識を持って学習に取り組むことができる。教材の最後に目標に合わせた振り返りの視点が示されている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文法のまとめ」は詳しい説明と練習問題が分けて表記されている。</li> <li>・解説動画や朗読音声だけでなく、デジタルドリル、補助教材、ワークシートなど、豊富なコンテンツを用意しており、必要に応じてQRコードから参照することができる。</li> <li>・「領域別教材一覧」において、教材ごとの身につけたい力が示されており、自律的に学習を進めたり、次の学びへの意欲を得たりすることができるようになっている。</li> <li>・「書く」活動に、自分自身で課題を発見するような問いが明確に示されていない。</li> <li>・3領域それぞれが単独で配列されている。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3領域の学習活動の流れと、指導事項のつながりが明確になっており、学習のプロセス順になっている。</li> <li>・巻末の「言葉の自習室」に随筆や物語の追加教材があり、読み比べができる。また、「書くこと・話すこと」のテーマ例集もあり、発展的な学習を生徒が自ら実行していける。</li> <li>・文法等のページで、文章での説明が多く、既得の知識・技能が簡潔にまとめられたページがないため、学習の中で振り返って活用することが難しい。</li> <li>・「読むこと」や「書くこと」の単元の課題の中に、自分で立場を選択したり、資料を活用して意見を表現したりする課題がない。</li> <li>・QRコードの何についての資料が用意されているかの記載がない。</li> </ul>
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語」のさまざまな教材でデジタルコンテンツによる練習問題が用意されており、自分に必要な学習を進んで行うことが可能である。</li> <li>・読むこと教材の最後に示されている「学びへの扉」と「学びのカギ」は、読みやすい構成で学習の流れが端的に示されている。学習の目標と学習の流れ、学びのカギの内容が一貫していてその単元で学ぶことが分かる。</li> <li>・文法や言葉に関する単元はいきなり説明に入っており、興味づけがしにくい。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」の単元が年間6つあり、考えを伝え合う単元が他者と比べて多く、取り扱いが難しい。</li> <li>・3領域それぞれが単独で配列されている。「レッスン」の内容と前後の教材との関連が明確ではないため、学んだポイントをどの学習場面で活用するとよいか分かりにくい。</li> </ul>

中 学 校 書 写

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢や用具の持ち方において、写真や説明が詳しい。筆遣いの学習では、穂先の向きと筆圧が分かりやすいように言葉での説明とともに穂先のイラストとサイズで表現している。</li> <li>・単元の構成において、「目標→みつけよう→確かめよう→書写のかぎ→生かそう→振り返ろう」となっており、学習の見通しがもちやすい。</li> <li>・生活に広げようや書写活用ブックでは、習得した知識技能を生活の中で活用するようになっている。</li> <li>・中心を意識させる赤線がひかれており、空中での筆の動きを青い点線で示している。</li> <li>・毛筆の手本のサイズが1ページに収まっているので、机の上で扱いやすい。</li> <li>・毛筆の基本單元には、QRコードが示してあり、音声による説明と筆の流れや字形のポイントが線や文字で示される。</li> <li>・QRコードに説明がない。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と用具の使い方において、ボールペンの持ち方についても扱っている。自己評価ができるようチェック項目がある。</li> <li>・単元の構成において、「目標→試し書き→考えよう→生かそう→まとめ書きと応用→振り返ろう」となっており、学習の成果を実感することができる。</li> <li>・学習を生かして書くが單元ごとに設定されており、身についた力をすぐに確認して活用でき、日常生活に生かされる学習活動となっている。</li> <li>・中心を意識させる青線が引かれており、空中での筆の動きを黒い点線で示している。</li> <li>・毛筆における行書の手本のサイズが1ページに収まっているので、机の上で扱いやすい。</li> <li>・毛筆の基本單元にはQRコードが示してあり、書き方は動画のみで音声の説明はない。</li> <li>・QRコードに説明がない。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢や用具の持ち方において、写真が大きく、動画も充実しており説明も詳しい。</li> <li>・書いて身に付けようでは、学習を捉えなおすことができるようになっている。</li> <li>・毛筆における行書の手本のサイズが1ページに収まっているので、机の上で扱いやすい。</li> <li>・QRコードに「解説動画」「参考資料」など説明がついている。</li> <li>・単元の構成において、学習内容が順番に示されており、先に書き方のポイントが示されている。</li> <li>・中心を意識させる上下の▼はあるが、中心線が引かれていないため、指導者が補足する必要がある。</li> <li>・毛筆の基本單元にはQRコードが示してあり、書き方は動画のみで音声の説明はない。</li> </ul>

<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢・筆記用具の持ち方において、タブレットを使う姿勢も扱っている。写真が大きく動画も充実している上、リフレッシュできるような体操もあり、説明が詳しい。自己評価できるようチェック項目がある。</li> <li>・単元の構成において、「目標→考えよう→学びのカギ→確かめよう→生かそう→振り返ろう」となっており、学習の流れが分かりやすい。</li> <li>・切り離して使える書写ブックがついており、毛筆で習得したことを硬筆に生かして学びを深められるようになっている。</li> <li>・毛筆の基本單元には、QRコードが示してあり、動画に音声はないが、筆の流れや筆圧に関することが文字で示される。</li> <li>・QRコードに「他の文字にもチャレンジ」「参考資料」など説明がついている。</li> <li>・中心を意識させる上下の▼はあるが、中心線が引かれていないため、指導者が補足する必要がある。</li> <li>・單元ごとに振り返ろうとあるが、振り返りの基準が明確ではない。</li> <li>・毛筆の手本のサイズが全て見開きになっており、原寸大で大きさが掴みやすい反面、机の上で扱いにくい。</li> </ul>
----------------	---

中 学 校 社 会 (地理的分野)

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開き 2 ページごとに D-MOVE の QR コードがあり、チェック &amp; トライの問題に取り組むことができるように工夫されている。(p64、66 など)</li> <li>・地域調査の単元で「聞き取り調査の仕方とマナー」が示され、連絡の取り方やメモの取り方などの例示があり、生徒の主体的な学習に活用しやすい。(p153)</li> <li>・「持続可能な地域のあり方」の単元において、プレゼンテーションソフトの活用方法や動画を使った発信の仕方について触れられ、ICT 活用を念頭に、生徒の知識・技能を活用した学習のための工夫が見られる。(p279)</li> <li>・第 4 章「地域の在り方」では「持続可能な」という枠組を設けて視点が示されているため、取り組みやすい。中でも「広島に行って学ぶ」という設定がしてあるため、自分たちの地域として捉えやすく主体的な学習につなげやすい。さらに、取組の例やまとめ例等複数例示 (p274 左下、p278 左下など) されており、課題発見から調べてまとめ発表するまでが取り組みやすいよう設定されている。</li> <li>・日本の諸地域の単元において、各地域を構成する項が 4 者で唯一 4 つしかなく、他者が 5 項目で記載している内容を 4 項目に縮めて記載しており、他者よりも若干内容が簡略化されている。(p183～268)</li> <li>・「世界の諸地域」では、各節最初の見開きで、その州の特徴的な写真(1 ページ分)とその位置が地図に掲載されている。(p92～94 など)</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の地域区分を扱うページが 4 者の中で唯一単元の始めに配置され、単元の学習内容が地域区分に結びついていることをイメージしにくい。(p146～147)</li> <li>・「日本の諸地域」の雨温図が縦に配列されていたり大きさの違う雨温図が並んでいたりする(p189 と 218、235 を比較)ため、配置や構成が統一されておらず比較して考えづらい。</li> <li>・中国・四国地方の学習内容に、広島市について扱った項があり、身近な事例をもとに学習課題に対する考えを深めることができる。(p190～191)</li> <li>・巻末に主な家畜・主な鉱産物・世界の主な農産物の写真資料はあるが、解説が全くないため、理解するにはさらに調べる必要がある。</li> <li>・巻末の索引において、4 者で唯一重要語句と地名とが分けて記載されていない。(p294～297)</li> <li>・第 2 章「日本の地域構成」において、他者にはある日本と同緯度、同経度の国々の扱いがなく、その学習をしないまま時差の学習に入ったり日本の領域の学習に入ったりする構成になっており理解しづらい。</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縮尺と実際の距離の関係、断面図の作り方、2 万 5 千分の 1 と 5 万分の 1 の地形図が見開きのページにあるなど、地形図の内容が充実している。(p130～133)</li> <li>・「日本の諸地域」の冒頭ページには親しみやすいイラスト地図があり、小学校の既習事項も含まれているなど生徒の興味関心を引く工夫がなされている。</li> <li>・巻末に用語解説も統計資料もないため、本書だけでは用語についての理解、学習に必要なデータの検索や比較が難しい。</li> <li>・第 1 章「人々の生活と環境」では、雨温図に都市名だけでなく、国名が ( ) 書きされており、同ページの世界地図で位置を確認しやすい。しかも使われている写真資料が雨温図の国と一致しているため、生徒がその気候での生活(衣食住)をイメージしやすい。(p30～31、32～33、34～35 など)</li> <li>・行間に関連する解説マークやページ数などの情報が他者と比べて多く、本文に集中しづらい。(p68、124 など)</li> <li>・「日本の諸地域」では、地形図と別のページに雨温図が掲載されているので、関連付けて考えにくい。</li> </ul>

<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の地域区分のみを扱うページは設けられていないものの、人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の4つのページそれぞれで地域区分について触れられており、地域が様々な要因によって区分されることをイメージしやすい。(p156～163)</li> <li>・地域調査の単元では、修学旅行で訪れる学校の多い京都市伏見区を題材とし、中学生の調査活動の様子を示した写真を多用して具体的な調査方法を例示しながら、地域の産業について考えを深める工夫が見られる。(p130～143)</li> <li>・地形図活用のページが、単元の学習の流れとは別にコラムとして掲載されており、地域調査の中で地形図を活用するという学習の流れが意識しにくい。(p132)</li> <li>・「世界各地の人々の生活と環境」で使用されている写真の場所が見開き2ページの世界地図で示されていないため、紙面上でわかりにくい。(p36～37など)</li> <li>・地形図及び人口密度を表す地図と雨温図の掲載位置が離れているため、関連付けて考えにくい。</li> <li>・日本の交通・通信について取り扱うページでは、新型コロナウイルスが交通・通信に及ぼした影響が掲載されており、生徒が主体的に学習に取り組むための工夫が見られる。(p164～165)</li> </ul>
----------------	---

中 学 校 社 会 (歴史的分野)

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学習の基礎的な知識・技能を系統的に習得させる「スキル・アップ」が設けてある。(p37 など)</li> <li>・見開き2ページごとに、その時代を象徴するサブタイトルが示してあり、分かりやすい。また、色づけされた年表が右ページ横に示されており、時代感覚を捉えやすい。</li> <li>・各章末に、「まとめの活動」を設け、個別的な事実のみならず、因果関係のある事実についてもふり返ることになっており、自己の学習状況をふり返り、次の探究課題の解決につなげられるようになっている。</li> <li>・公民や国語・書写、小学校など他分野や他教科、他校種との関連を示すマークがあり、カリキュラムマネジメントを意識した構成になっている。</li> <li>・見開き2ページのQRコードによって合計298種類の多様で豊富な資料や動画等で学習できるようになっている。単元のイメージをしやすくする「導入クリップ」、「ワークシート 導入の活動」、「クイズ だれだろう？歴史人物」、学習内容の振り返りとして活用できる「チェック&amp;トライ」、学習技能の育成や学習内容の理解に活用できる「なるほど！スキルアップ」やオリジナル動画やNHK for Schoolの動画の「D-MOVE」、資料を読み取り活用する力を付ける「D-ZOOM」、「関連する地理・公民の教科書のページ」、「関連する他教科の教科書のページ」、「社会科用語マスター(用語解説)」が準備されている。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史の技」のQRコードで地図の読み解き方などの技能を習得させるよう構成されている。(p25)</li> <li>・「時代の変化に注目！」を設けて、社会の変化の様子から時代の移り変わりをつかませようとしている。(p59 など時代区分のごと)</li> <li>・p44、p51のように、節の問いが中心になっており、節の最後には節の問いについて説明させる問いが設定されている。また、各章の学習を貫く問いを示すとともに、「学習の見通し」も示されており、主体的に学習に取り組めるよう図っている。</li> <li>・他者と比べて、女性・子ども・沖縄・アイヌ等、民衆に視点を置いた歴史に関する記述が多い。</li> <li>・QRコードの数が合計15である。内容は、公共の機関へのリンク集、歴史の技として地図と系図の読み方等のオリジナルの動画、歴史クイズになっている。第5章と第7章のQRコードの内容は歴史クイズのみである。</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もくじに古代や中世といった時代区分の明記がされておらず、歴史の大きな時代の流れを意識しにくい。(巻頭3-4)</li> <li>・p62等各章末ごとに「学習する時代の見通し」に戻ってみようのコーナーがあり、振り返ったり、さらに深めたいと思ったことを記入するようになっている。</li> <li>・時代像・イラスト等の視覚資料が充実している。例えば、各2ページ全28ページにわたり『タイムトラベル』や『世界とのつながりを考えよう～イラスト編～』でその時代の人々の様子を問題形式で読み取らせ、関連ページを載せている。</li> <li>・QRコードの数が合計47である。各章に多くて11、少なくとも5のQRコードが設けられているが、すべて同じ内容である。NHK for Schoolの動画、教科書と同じ資料、教科書の問いに対するワークシートなどである。</li> </ul>
山川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって難解な語句が重要語句として扱われている。(p123「分地制限令」、p132「海舶互市新例」など)</li> <li>・見開き2ページの中に問いとその中の資料に係る問い、ステップアップの問いがあるが、章を貫く問いや節を貫く問いがなく、章や節の見通しが持ちにくく、振り返りの問いがないため学習内容の習得状況をチェックしにくい。</li> <li>・文字が小さかったり、1時間で扱う内容の分量が一定でなかったりする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QRコードの数が合計31である。内容は、NHK for Schoolの動画、NHKアーカイブス、動画を含めて5つの教科書に掲載のない資料、教科書の資料を拡大して見るもの、公共機関のホームページである。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人名さくいん」と「事項さくいん」があり、各ページに記載されている重要語句のページ番号を赤字で表している。また、「テーマ別さくいん」(p292~293)まで示してある。</li> <li>・p18~21等、各編のはじめに「学習のはじめに」から丁寧に導入した上で、編の問いを設定したり、p210等で「チャレンジ歴史」を設け、より深い学習ができるようにしている。</li> <li>・p83等、絵や地図などの資料によって、視覚的に理解させようとしている。</li> <li>・QRコードによる資料は、編の中の節ごとにも用意されている。QRコードの数は、合計185である。各節の中の複数のQRコードの内容はすべて同じである。内容は、各節のイントロダクション動画をはじめ、ポータルフォリオ、確認小テスト、歴史的事象のオリジナル動画、NHK for Schoolの動画、公共機関などへの外部リンク、教科書掲載の歴史的事象の関連資料である。</li> </ul>
自 由 社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新奇な兵器」(p80)、「凡夫(ぼんぷ)」(p82)など聞き馴染みのない用語が随所に使用されており、理解しにくい。</li> <li>・p66~68等、各章の章末にある「復習問題のページ」「対話とまとめ図のページ」では、主に事実を問う問いで構成されている。また、兄弟で対話している場面で学習内容の確認ができるが、学習者が振り返ったり展望を持ったりするつくりになっていない。</li> <li>・QRコードは一切ない。</li> </ul>
育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見方・考え方」(p163など)「資料活用」(p165など)を示し、思考の深まりを促す視点が示されている。</li> <li>・各章のはじめに「鳥の目で見ると」「虫の目で見ると」を設け、歴史を広く眺めたり、一つの資料からわかる事柄を見つけ出したりするなど興味・関心を広げるようにしている。</li> <li>・見開き2ページの最初の「学習課題」と最後の「確認」が整合していない箇所がある。</li> <li>・QRコードの数は各章1で合計6つである。内容は、NHK for Schoolの動画か公共の機関のホームページである。</li> </ul>
令 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者には見られない縦書きで、生徒にとってなじみがない。</li> <li>・内容は、主に文章だけの説明で、他者と比べて資料や具体例が少ない。</li> <li>・主体的な学習につながるコラムやコーナーが、他者と比べて少ない。</li> <li>・小学校の内容を意識したページがない。</li> <li>・QRコードは一切ない。</li> </ul>

中 学 校 社 会 (公民的分野)

著者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 章末の「深めよう」や「探究課題を解決しよう」では学習内容や自分の考えをまとめる活動が設定されている。</li> <li>・ 見開きごとに、学習の振り返りとして「チェック&amp;トライ」があり、「チェック」は本文からの抜き出し、「トライ」は学習内容の説明や班での対話が設定されている。</li> <li>・ 章末の「振り返ろう」では節の問いを解決する活動を通して、主体的に学習に取り組む工夫をしている。</li> <li>・ 章末では、章の問いの解決を促すため、節ごとに解決した課題をまとめるコーナーを設けている。</li> <li>・ 章の初めに、「導入の活動」が設定されており、学習の見通しを持たせるとともに、探究課題へと繋げている。</li> <li>・ 見開きごとにQRコードがあり、動画や思考ツール、チェック&amp;トライ、用語解説などに繋がっている。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 章末の「学習のまとめと表現」では、「学習のはじめに」を振り返り、章の問いを自分の言葉でまとめる活動が設定されている。</li> <li>・ 見開きごとに、学習したことに振り返る「確認」と、学習したことを活用して表現する「表現」が設定されている。</li> <li>・ 各章末の「JUMP! 未来のためにできること」では、実社会の課題と向き合い探究する学習を設定し、自分の考えをまとめることで社会参画が目指されている。</li> <li>・ 章の初めに、イラストや語句クイズが設定されており、学習の見通しを持たせている。</li> <li>・ 章の初めと終わりにQRコードがあり、導入では「語句クイズ」、終末では「まとめワーク」に繋がっている。</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 章末の「探究学習への準備」では5部の課題探究学習に向けて、探究テーマを考える活動が設定されている。</li> <li>・ 各章末では章の問いを解決させるため、節の学習内容を構造化しまとめさせるコーナーを設けている。</li> <li>・ 各章の振り返りでは、「学習の前に」を再掲し、振り返りをさせることで学習前後の様子を把握した上で、自分の考えをまとめることができるように工夫している。</li> <li>・ 章の初めに、イラストを読み取る活動があり、章全体の学習内容の見通しを持たせている。</li> <li>・ 導入の活動とまとめの振り返りの活動がリンクしており、学習の前後の姿や思考の変化が把握しやすい。</li> <li>・ 節の初めにQRコードがあり、用語解説やNHK for School、リンク集などの単元別メニューに繋がっている。</li> </ul>
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 章末の「章の問いに答えよう」では思考ツールを活用して、考えを整理することで章の問いをまとめることができる。</li> <li>・ 章末の「章の学習を振り返ろう」ではこれからの学習や社会生活に生かしていきたいことや考え続けていきたいことを書く活動が設定されている。</li> <li>・ 章の初めには、章の内容に関するマンガがあり、章の学習の見通しを持たせている。</li> <li>・ 見開きごとにQRコードがあり、確認小テストや動画、スライドショー、関連資料などに繋がっている。</li> <li>・ 他者と比較して、資料が大きく掲載されており、具体例も書かれている。</li> </ul>

自由社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開き2ページの最後にある「ここがポイント！」で、学習内容の要点がまとめられている。</li> <li>・章末の「学習のまとめ」では最重要語句の確認ができ、「学習の発展」では章の学習内容について約400字でまとめる活動が設定されているが、抽象的なものもあり生徒には捉えにくい。</li> <li>・章末に学習を発展させる課題が設定されているが、考えるためのポイントが見られず、これまでの学習とのつながりを捉えにくい。</li> <li>・SDGsについてのコラムが他者と比較して少ない。</li> <li>・QRコードや用語解説がない。また、重要語句(太字)に「旧敵国」「基地貸与」など他者では見られない語句がある。</li> </ul>
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章末の「学習のまとめ」では重要語句の確認や表現に関する課題が示されている。</li> <li>・各章の初めに「・・・の入り口」として見通しを持たせている。</li> <li>・章の初めにQRコードがあり、NHK for Schoolの動画に繋がっている。</li> <li>・具体的な映画名やアニメ名が挙げられて、学習への活用が促されている。(p27、71)</li> </ul>

## 中 学 校 地 図

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミツバチのキャラクタコーナー (Bee`s eye) の設問が多数あり、解答例のQRコードも設問の近くに掲載されているため、生徒の主体的な学びに役立つ。(p17、19、20など)</li> <li>・断面図A—B間の線が地図上にはっきり記されており、わかりやすい。(p19、65など)</li> <li>・鳥瞰図が掲載されている州と、掲載されていない州がある。</li> <li>・北アメリカ州と南アメリカ州、 アフリカ州とアジア州との境界が世界地図で読み取りにくい。(両者のp 1-3 を比較)</li> <li>・QRコードからアクセスした資料ページの内容は、各ページの問いの解答例や各州のデジタル地図のみで、知識・技能を習得する際の活用場面が限られる。</li> <li>・全体的に地図上の海の部分が大きく掲載されており、情報が少ない。(p17)</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシアとヨーロッパ州との境界だけでなく、北アメリカ州と南アメリカ州、アフリカ州とアジア州との境界が世界地図で鮮明に描かれている。(両者のp 1-3 を比較)</li> <li>・他者にはない大陸から見た日本を示す地図が描かれている。(p35)</li> <li>・QRコードからアクセスした資料ページの内容が充実しており、様々な資料から知識・技能を習得しやすい。</li> <li>・世界各州では一般図に合わせてイラスト付きの鳥瞰図があり、記述されている情報量が他者より豊富である。</li> <li>・断面図A—B間の線が地図中に記載されておらず、断面図がどこを描いたものかわかりづらい。(p25など)</li> <li>・他者は州の地図の順が教科書と一致しているが、アジア州の後がアフリカ州、ヨーロッパ州の順に構成されており、地理の教科書の構成と異なる。</li> </ul>

中 学 校 数 学

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「深い学びのページ」では、生徒が問題解決の進め方を意識しながら取り組めるよう、問題発見・解決の過程が具体的な活動で示されている。また、生徒の思考を深めることができるよう、図や式を使って自分の考えを説明し伝え合う活動とともに、多様な考えを認めたり、共通点や相違点を見つけたりする活動が設定されている。</li> <li>・生徒が身近に感じ、課題意識を持って取り組むことができるよう、サッカーチームにおいて、現在のチームと優勝時のチームの1500m走の記録を比較させる課題を設定している。また、データも整数で扱いやすい。</li> <li>・基本確認問題1年51問（クイックチェックとして+34問、フラッシュカードというデジタルコンテンツもあり）、2年17問、3年15問、章末問題1年30問、2年24問、3年16問（活用の明記あり）デジタルコンテンツも多数。</li> <li>・方程式の利用の例題は、代金・速さ・過不足・比例式の4種類である。それぞれの例題に、絵、線分図、表を用いて理解を助ける表記になっている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見・解決の流れを意識した課題は設定されているが、生徒自身の考え方を説明させる問いはなく、すべてモデルの考え方を説明する問いになっている。</li> <li>・「データの活用」の導入は、10cmの長さの感覚について実験をした時の1回目と2回目の記録を比較する課題である。イメージはしやすいが、「10cmの長さがどのくらいか」という課題に生徒は関心・意欲を持ちにくい。</li> <li>・一次方程式では、解の吟味を、独立した例題をあげて丁寧に扱っている。（2題）</li> <li>・3年の巻末に「中学校数学のまとめ」が5ページある。</li> </ul>
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方を説明する問題は、考えを説明するためにどんな表現が必要なのかわかりやすいよう、穴埋めの形式になっていたり説明のモデルが示されたりしている。</li> <li>・「データの活用」の導入は、A組とB組のルーラーキャッチ（定規を落下させてできるだけ早くつかむ）の記録を比較させる課題である。実際に実験を行うことも可能であり、生徒が意欲的に学ぶことができる。</li> <li>・証明の進め方について細かく説明があり、1つの問題を例にして、図を使って根拠となることがらがまとめてある。「図形の性質と合同」で「反例」を扱っている発行者は、学校図書のみ。</li> <li>・3年の巻末に3年間の系統についてのまとめが、図形領域しかない。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年の巻末に「学びのマップ」が12ページあり、既習内容を振り返ることができる。また、「学びリンク」（二次元コード）でアニメーションを見ることもできる。</li> <li>・「みんなに説明しよう」「話し合ってみよう」では、単元の利用場面だけでなく、知識・技能を身につける場面でも、自分の考えを説明したり友達と伝え合ったりする活動が設定されている。</li> <li>・「データの活用」の導入では、紙コプターの羽の長さや滞空時間のデータを分析する課題である。実際に実験をしないとイメージできない。また、紙コプターを作るのに時間がかかり、かつ正確に制作しないとデータの比較ができない。</li> <li>・基本確認問題1年61問、2年13問、3年14問。章末問題1年39問、2年18問、3年19問（3年の章末は基本問題なし）（活用と明記）。全体として扱う問題量が少ない。</li> </ul>

啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子レンジの出力と加熱時間の関係を扱っており、日常生活との関わりがある題材である。また、考察させ表現させる問いもある。（1題）</li> <li>・「データの活用」の導入では、紙ふぶきの長方形の長さや幅の違いと滞空時間のデータを分析する課題である。実際に実験をしないとイメージできない。また、紙ふぶきを作るのに時間がかかり、かつ正確に制作しないとデータの比較ができない。</li> <li>・章の導入前に、前学年までの学習を振り返るページがない。</li> <li>・考え方を説明したり話し合ったりする例題や問題が7問、計算の仕方等の技能を説明させる問題が1問あるが、説明のモデルや解説等は示されていない。</li> </ul>
数研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子レンジの出力と加熱時間の関係や動画再生の速度と時間の関係を扱っており、日常生活との関わりがある題材である。（2題）</li> <li>・「データの活用」の導入では、A市とB市の50日分の気温と天気の詳細データを比較させる課題である。旅行候補地が仮想の市であり、旅行中の気温や天気を調査・考察する必然性や目的等が薄い。</li> <li>・問題発見・解決に特化したページはない。「TRY」や「Q」等の中には、生徒のつぶやきや疑問が吹き出しの形で示され、対話を意識した構成になっているが、思考の方法や知識・理解のヒントを与えるものであり、自分の考えを説明し伝え合う活動につながっていない。</li> <li>・3年の巻末に「中学3年間のまとめ」が8ページあるが、他の発行者と比べて文字が小さい。</li> </ul>
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方程式の利用の例題は、代金（2種類）・過不足・速さ・比例式の4種類である。それぞれの例題に、絵、線分図、表を用いて理解を助ける表記がある。</li> <li>・「データの活用」の導入では、20世紀の100年間における高知県高知市の3月の平均気温のデータを比較させる課題である。「地球温暖化」という今日的なテーマでもあり、本市のデータで取り組むことも可能である。</li> <li>・基本確認問題1年55問（計算練習として+40×3問、身につけるというデジタルコンテンツあり）、2年18問（Link 補充あり）、3年12問。章末問題1年28問、2年15問、3年14問（基本的な問題がない）</li> <li>・速さ・時間・道のりの問題に合わせて、解の吟味を扱っているが、他者と比較して例題が少ない。（1題）</li> </ul>

中 学 校 理 科

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つまづきやすい内容は「例題」として取り上げ、考え方等を解説している。また、公式や重要事項等は「ここがポイント」欄で強調している。</li> <li>・単元末に、「学習内容の整理」があり、全ての漢字に振り仮名が振られ、学習したページが記述されている。</li> <li>・「じっくり探究」においては、「考察のポイント」は掲載されず、生徒自身での考察を促している。また、探究課題に対する結論がまとめやすいようにまとめる場面でキーワードが示されている。</li> <li>・巻頭に「議論のしかた」が説明されている。また、探究の流れの各場面で、理科の見方・考え方を意識させ、科学的な対話を促されるようなキャラクターの会話が設定されている。</li> <li>・QRコード「資料動画」「シミュレーション」等から、詳細の解説や動画、シミュレーションが視聴できる。</li> <li>・節の始めに、問題発見「レッツ スタート!」「?」を設定し、課題を明示されている。また、節の終わりに、活用問題「学びをいかして考えよう」が設定されている。</li> <li>・表紙から探究内容になっており探究の意識づけが高い構成になっている。</li> <li>・Before&amp;After で章ごとに学習前後の変容について考える場が設定されている。</li> <li>・QRコードを読み取ると出てくるワークシートでは、学習前と学習後の変容を生徒自身も見取ることができるになっている。また、シンプルな構成になっている。</li> <li>・単元や章の導入写真、イラストが主題にリンクしており、思考や学習意欲を喚起するようになっている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の冒頭に「これまでに学習したこと」、本文中に「思い出そう」や「つながる」(算数・数学)を配置し、本単元の学習内容に関連のある既習内容が示されている。</li> <li>・「探究活動」は、単元末に設定されており、学習の流れの中に位置づけられていない。</li> <li>・節の始めに、「?」マークで課題を明示している。</li> <li>・QRコードが他の発行者と比べて少なくかつリンクを貼っているだけである。</li> <li>・単元のはじめに「これまでに学習したこと」「これから学習すること」と写真を中心に示されている。</li> <li>・単元や章の導入写真、イラストが身の回りの事物現象や理科に関する職業になっている。</li> </ul>
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の冒頭に「Can-Do List」が示され、本単元で身に付けるべき知識・技能が明記されている。</li> <li>・計算問題等が単元内ではなく、教科書の最後にまとめられている。問題を解くための考え方等の解説が少ない問いがある。</li> <li>・学習内容のほぼすべてが探究の流れで進められている。また、「仮説」「計画」は見開きの右ページに設定してあり、実験計画の例や考察が目に入ることなく、「仮説」「計画」を考えることができる。</li> <li>・探究の課題設定や計画立案の場面において、生徒の発言を予想した例文が掲載されているが、対話的な学びにつながる学習活動は特に明示されていない。</li> <li>・単元の始めに、「学びのあしあと」「ふり返ろう・つなげよう」「Can-Do List」を整理し、学習に見通しをもたせる活動が設定されている。</li> <li>・巻末に高校入試問題や全国学力・学習状況調査の問題と考え方が示されている。</li> <li>・「ふり返ろう・つなげよう」で、既習内容との関連が示され、「Can-Do List」で目標が示されている。</li> <li>・小單元ごとに「この時間の課題」がページの右上に、「まとめ」がページの右下にと決まった位置に明記されている。</li> <li>・単元や章の導入写真、イラストが単元に沿ったものになっているが、写真の解説や</li> </ul>

	文章が少ないため活用しにくい。
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元各章の冒頭に「これまでの学習」を配置し、本単元の学習内容に関連のある既習内容が示されている。また、巻末に「理科で使う算数・数学」の記載がある。</li> <li>・つまずきやすい内容について、特に取り上げて説明されていない。</li> <li>・「探究してみよう」においては、キャラクターの対話が多く、各単元で5・6ページほど紙面を使っており、仮説や解決方法を発想させやすくなっている。</li> <li>・課題に対する結論が大きく表記されており、生徒が先読みしてしまう可能性がある。</li> <li>・QRコードから「まなびリンク」にとび、生徒の理解を助ける動画や解説資料を視聴することができる。</li> <li>・「ハローサイエンス」として、生活や環境、歴史、高校の物理・化学・生物・地学との関連など多岐に渡って科学の話題が示されている。</li> <li>・実験・観察のときなど、教師キャラクターが生徒と会話する場面をイラストで写真や図の意味を分かりやすく説明している。</li> </ul>
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が勘違いしやすい基本事項は「なるほど」で説明されている。</li> <li>・「考えてみよう」が設定されており、身の回りの事物・事象から探究課題へつなげる活動があるが、多くの課題は明示されており、課題を見出す活動がほとんど設定されていない。</li> <li>・「探Q実験」「探Qシート」「探究の流れと探究の振り返り」を連動させて使うことで、根拠ある仮説や、安全な実験計画を発想させやすくしたり、探究の過程の妥当性・信頼性を吟味したりすることができる。</li> <li>・QRコード「解説動画」「Webリンク」等により、動画による解説が流れ、自覚学習ができたり、生徒の興味・関心を高めたりしている。</li> <li>・節の始めに、「？」マークで課題を明示している。また、節によっては、「Action」により、学んだことの活用問題を設定されている。</li> <li>・単元の始めの「学ぶ前にトライ！」単元終わりの「学んだ後にリトライ！」で単元を通した問いが示されている。また、?→!→アクションで学習の流れが示されている。</li> <li>・単元の振り返りシートがPDFとエクセルとスプレッドシートの3種類ある。</li> </ul>

中 学 校 音 楽 (一 般)

発行者	意 見
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1年リズム→2年五音音階→3年和音進行」と段階を追った創作になっている。</li> <li>・[共通事項]に示された「音楽を形づくっている要素」を手がかりに、学習を進めることができるよう示されている。</li> <li>・1年間の学習の流れが領域・分野ごとに「学習MAP」として表されている。「学習MAP」では、領域・分野相互のつながりや系統性についても工夫されている。</li> <li>・写真や資料を配し、我が国の自然や四季の美しさを大切にする気持ちを育むように工夫されている。</li> <li>・「リズムパターンをつくろう」では、QRコードを読み取ると音の例を聴くことができるだけである。</li> <li>・1年、2・3年上で日本の郷土の音楽に触れられているが、2・3下では扱われていない。</li> </ul>
教芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音のつながり方に着目して旋律をつくったり、さまざまな楽器、身の回りのものや声などを用いて音楽を構成したりする活動を通して、創造性を培えるようにされている。</li> <li>・[共通事項]に示された「音楽を形づくっている要素」のうち、その教材を学習する際の目安となるものが、学習目標の下に示されている。</li> <li>・学習を通して学習指導要領に示された内容を段階的に進められるよう、また上下の学年の学習とスムーズにつながるように教材を選択配列している。</li> <li>・学習をスムーズに進められるよう学習目標及び教材を配列し、学習内容の分量も適切になるように工夫されている。</li> <li>・写真やイラスト上の文字については、読みやすさを重視し、背景が無地の部分に歌詞が配置されている。写真では背景を白地にして視認性が高められている。</li> <li>・「My melody」では、QRコードを読み取ると、コード、音、リズムを選んで創作できるよう作られているので、各自で取り組むことができる。</li> <li>・日本の郷土の音楽について、全学年にわたって触れており、継続性がある。</li> </ul>

中 学 校 音 楽 (器楽合奏)

発行者	意 見
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書前段〔演奏の仕方を身につけよう〕では、各楽器、原則見開き左上に題材が表されている。</li> <li>・楽譜のサイズが大きいので、階名などを記入しやすい。</li> <li>・タンギング・姿勢のページが教芸より2ページ少ない。</li> <li>・創作の内容については、自由度の高い内容が配置されている。</li> <li>・箏の譜面は西洋音楽表示で示されており、工夫はされているが、日本の伝統音楽の形式（縦譜）は少ない。</li> <li>・幅広いジャンルの名曲を掲載し、音楽の多様性を感じ取れるようにされている。</li> <li>・ハ長調の曲数は教芸と同じである。</li> <li>・紙面に掲載した二次元コードで、生徒の使用する端末からウェブサイト〈学びリンク〉に接続でき、動画・音声・参考資料を容易に閲覧できる。</li> </ul>
教芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が具体的に示されていることによって楽器の習得に合わせて学習ができる。</li> <li>・楽譜のサイズが教出に比べ少し小さい。</li> <li>・タンギング・姿勢にページを割いており、リコーダーにおいて、教出より2ページ多く掲載されている。</li> <li>・創作の内容については、日本の音階や雰囲気を生かした創作になっており、例が示されていることにより、取り組みやすいものが配置されている。</li> <li>・箏の譜面表示は西洋音楽表示と日本の伝統音楽の形式（縦譜）で表示されており、日本の伝統音楽を理解する上で扱いやすい。</li> <li>・幅広いジャンルの名曲を掲載し、音楽の多様性を感じ取れるようにされている。</li> <li>・ハ長調の曲数は同じだが、取り組みやすい曲が多い。</li> <li>・紙面上の二次元コードを読み取ることによって、学習に役立つコンテンツへアクセスして閲覧、視聴できるようにしている。また、近くに見出しがあることによって、必要に応じて活用しやすい。</li> <li>・350点を超えるデジタルコンテンツで、授業や個別最適な学びを支えている。</li> </ul>

中 学 校 美 術

発行者	意 見
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「学びの資料」を設け、形や色彩、材料や用具の取り扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。(1) ①</li> <li>・「風神雷神図屏風」の図版はやや小さく、金屏風の質感も十分に表れていない。(1) ②</li> <li>・対話を促す記述が吹き出しにある。(2) ①</li> <li>・生徒が実際に制作に取り組む過程を写真や生徒のコメントを使って分かりやすく説明したものが掲載されている。(4つの題材) (2) ②</li> <li>・生徒作品を多く掲載したり、「作者のことば」として、表現の工夫点を記載したりして、生徒が表現したい題材を生み出すヒントを用意している。(3) ①</li> <li>・私たちの生活や社会の多様な問題に目を向けて考えさせる美術の役割や、社会に訴え課題を解決していく美術の力を学ぶことができる内容が掲載されている。(3) ②</li> <li>・表現を伴う題材と鑑賞中心の題材の割合は、24:9であり、鑑賞中心の題材が少ない配列となっている。(4) ①</li> <li>・4ページの折込ページの活用や大型図版を掲載し、関心・意欲を高める工夫がなされている。(4) ②</li> <li>・技法解説の動画が少なく、資料集がないと指導が困難な題材が多い。(5) ①</li> </ul>
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊の資料として、形や色彩、材料や用具の取り扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。別冊になっていることで、2・3年時に既習事項の確認を行うことが容易である。(1) ①</li> <li>・「風神雷神図屏風」を屏風の折れ目がページの折れ目と重なるように左隻右隻をそれぞれ2ページの見開きで掲載し、金屏風の質感もよく分かる。(1) ②</li> <li>・鑑賞を深めるための対話の視点を、「POINT」の吹き出し内に示している。(2) ①</li> <li>・多くの題材(19の題材、31の作品)で、生徒が実際に制作している工程を3・4点の写真と、その場面ごとで生徒が考えたことが示されており、完成までの思考の過程がよく分かる構成となっている。(2) ②</li> <li>・生徒の参考作品について、構想や意図、制作風景や参考にしたモチーフ等が流れ的に掲載されており、生徒が制作の流れを把握しやすいレイアウトになっている。(3) ①</li> <li>・美術2・3「地域の魅力を表すパッケージ」はP.88～P.91の4ページにわたって掲載され、自分の住む地域の魅力を考え、地域の魅力を造形的な見方・考え方を深めながら学習に取り組むことができる内容となっている。また、二次元コードから視聴できるコンテンツも充実しており、学習を深める手立てとなっている。(3) ②</li> <li>・表現を伴う題材と鑑賞中心の題材の割合は、26:17であり、おおむねバランスよく配列されている。(4) ①</li> <li>・作家作品を多数掲載しているため、写真のサイズが小さいところもある。(4) ②</li> <li>・表現を支える技法動画が40本用意されており、字幕や再生速度の設定を行うことができる。1本あたりの動画時間数が1～3分で活用しやすい設定となっている。(5) ①</li> </ul>

<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末に「学びを支える資料」を設け、鑑賞用の資料とともに、形や色彩、材料や用具の取り扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。(1) ①</li> <li>・ 「風神雷神図屏風」はやや小さな図版で掲載されている。(1) ②</li> <li>・ グループで対話をしながら制作している様子が掲載されている。(2) ①</li> <li>・ 生徒が活動している様子を示した単独の写真はいくつかあるが、制作工程を追って示すものや、生徒がそこでどう考えたり悩んだりしたかというものはない。(2) ②</li> <li>・ 「表現のヒント」として、行き詰まった生徒を想定した制作活動のヒントが記載されている。(3) ①</li> <li>・ 社会が抱える課題を自分事として捉え、問題を提起し、誰もが安全で豊かに暮らせる社会を作るために使う人の立場を考えてデザインする、美術と社会との関係を実感できる内容となっている。(3) ②</li> <li>・ 表現を伴う題材と鑑賞中心の題材の割合は、36:14 であり、鑑賞中心の題材が少ない配列となっている。(4) ①</li> <li>・ QRコードから 360° 見られる写真があり、1つの作品を様々な視点から見ることができる。(4) ②</li> <li>・ 各題材に「学びのはじめに」という題材を通して生徒に何を学んでほしいか、どのような題材なのかの解説動画があり、生徒が流れを理解しやすい。(5) ①</li> </ul>
----------------	--

中 学 校 保 健 体 育

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間の学習の流れが「見つける」→「学習課題」→「課題解決」→「活用」→「広げる」と示されており、流れができています。</li> <li>・ 「活用する」「広げる」において習得した知識を活用して思考力や判断力を育成する発問が設けられている。</li> <li>・ 図や資料だけではなく動画、思考ツール、シミュレーションソフトなどが用意されており、興味・関心を引き出す工夫がなされている。</li> <li>・ 3学年の保健分野で学習指導要領と違う配列になっている章があるため使いづらい。</li> <li>・ 図、グラフ、イラスト、資料、QRコードなど内容や目的に応じたものが効果的に配置されている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「つかもう」→「調べてみよう・話し合ってみよう」→「活用して深めよう」という流れで、1時間の学習の流れが示されている。</li> <li>・ 「話し合ってみよう」という設問はあるが、その内容は下の図や資料に掲載されているため思考・判断する場面が乏しい。</li> <li>・ 導入の「つかもう」が簡潔な一文による問いかけになっており分かりやすい。</li> <li>・ 「つかもう」と「活用して深めよう」があり、発展的な学習につなげることができる。</li> <li>・ 見開きで、左が文章、右が資料という配列で統一されている。</li> </ul>
大修館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「章のまとめ」の問題が充実しており、知識や技能の習得の確認に効果的である。</li> <li>・ 1時間の内容で導入とまとめ以外は話し合いなど考えを深める場面の設定が他の発行者と比べて少ない。</li> <li>・ 導入の「課題をつかむ」では選択肢から選び思考を促す工夫がされており、動機付けには効果的である。</li> <li>・ 「学習のまとめ」が実生活に繋がる発問となっており、まとめで本時の内容を深めることができる。</li> <li>・ 図やイラスト、資料の量が多く、レイアウトが複雑（色づかい含め）になっており、理解の難しい生徒もいる懸念がある。</li> </ul>
学研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間の学習の流れが「ウォームアップ（課題の発見）」→「エクササイズ（課題の解決）」→「学びを生かす（学びの活用）」系統的に示されている。</li> <li>・ 「学びを生かす」では自分の考えをまとめたり、仲間と話し合う場面が各単元で設定されている。さらに「見方・考え方」として考えるためのヒントが示されている。</li> <li>・ 協働的な学びに繋げる発問や表記が設けられており、主体的に学びに向かう力を養う工夫がなされている。</li> <li>・ 学習を通してウェルビーイングの実現に繋げるように構成されている。</li> <li>・ 3年生保健分野の「医療機関の利用と医薬品の使用」で、医薬品の使用量と作用（効果）のグラフがなく、視覚的な説明がしづらい。</li> </ul>

中 学 校 技 術 ・ 家 庭 ( 技 術 分 野 )

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全章の項の最初に「目標」と「学習課題」と「レッツ・スタート」が明記されている。</li> <li>・「キーワード」が小さく、見えづらい位置にある。</li> <li>・「熱処理」、「発電にかかる費用」等、知識・技能に関する情報量が多い。</li> <li>・振り返りを記述するようになっている。</li> <li>・小学校とのつながりに関する記述が少ない。</li> <li>・全般的に“持続可能な社会”に関する記述が多い。</li> <li>・巻頭見開き2頁にSDG sの説明がある。また、SDG sに関連した記載が本文中にある。</li> <li>・問題解決例が示されている。</li> <li>・各内容に技術の最適化について触れられている。</li> <li>・「これからの□□の技術」で社会と関連付けている。</li> <li>・「やってみよう」「調べてみよう」「考えてみよう」で、自分で調査したり、考えたりする項目が設定されている。</li> <li>・各内容の振り返りにおいて、「未来の Technology」で、自分の考えを記述する内容が示されている。</li> <li>・キャラクターが問いかけやアドバイスを行い、主体的に学ぶことの支援をしている。</li> <li>・各内容の始めに「レッツスタート」を設けて、学習内容への関心を高める工夫がある。</li> <li>・「技術の匠」で、社会で活躍している22人を紹介している。 (A7、B7、C2D6)</li> <li>・ページの下部に「技術の工夫」で実生活に繋げている。</li> <li>・作業の手順が掲載されているので、実践しやすい。</li> <li>・「安全・衛生」で安全面にも加えて、衛生面の配慮について記載がある。</li> <li>・ガイダンスの量が質・量ともに充実している。</li> <li>・学習内容にかかわる教科書の頁数：295</li> <li>・作品例(QRコード)68(A12、B11、C12、D18、統合3)</li> <li>・巻末に、学習の発展として、「統合的な問題解決」がある。(実習例：2)</li> <li>・「プロダクトデザイン」や「3D-CAD」「3Dプリンタ」が紹介されている。</li> <li>・QRコードを読み取ると説明文付きの動画が視聴できる。</li> <li>・14種類のマークで、本文と資料の関連付けをしている。</li> <li>・特別支援教育の視点に立った書体(UDフォント)を使用したり、図版やイラストのレイアウトを見やすいように配置したりしている。</li> <li>・教科書を閉じた状態でも「編」のページが色分けされている。</li> <li>・各ページに行数が、見えやすい所に記載されている。</li> </ul>
教図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての章の項の最初に「めあて」と「キーワード」が明記されている。</li> <li>・「めあて」と観点との繋がりが分かりにくい。</li> <li>・知識・技能に関する情報量が少ない上、“影たがね”といった通常使用しない工具での作業が記述されている。</li> <li>・振り返りがチェックを入れるだけで記述がないので、段階的な評価ができない。</li> <li>・小学校とのつながりに関する記述が少ない。</li> <li>・「社会の発展と技術」に“持続可能な社会”に関する記述がある。</li> <li>・巻頭にSDG sのマークがあり、「技ビト」や「スゴ技」にSDG sを関連付けた記載がある</li> <li>・各内容の始めに「問題を解決する流れ考えよう」が示されている。</li> <li>・各内容の最後に「社会の発展と□□の技術のつながり」が記載されている。</li> <li>・技術の最適化に関する記述がほとんどない。</li> <li>・各章末の「やってみよう」に模範解答が記載されている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容の「レポートをまとめてみよう」は半ページほどで記載量が少ない。</li> <li>・生徒や教師のキャラクターの吹き出しを利用して、生徒に語りかけることで、主体性を高める工夫がある。</li> <li>・「見つける」で、学習課題が提示されているが、具体的ではない。</li> <li>・技術にかかわる15人の人が紹介されている。(A4、B4、C4、D3)</li> <li>・実生活につながる記載が少ない。</li> <li>・すべての内容の始めに、見開き2頁で安全についての説明がある。</li> <li>・ガイダンスの量が質・量ともに他の発行者よりも少ない。(6頁)</li> <li>・学習内容にかかわる教科書の頁数教科書の頁数：299(別冊40を含む)</li> <li>・作品例：17(A4、B3、C6、D4)</li> <li>・統合的な問題解決がない。</li> <li>・技術の発展にかかわる具体例が少ない。</li> <li>・QRコードを読み取ると動画が視聴できる。(説明文はない)</li> <li>・9種類のマークで、本文と資料の関連付けをしている。</li> <li>・特別支援教育の視点に立った書体(UDフォント)を使用している。</li> <li>・教科書を閉じた状態でも「章」のページが色分けされている。</li> <li>・各ページに行数が記載されている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての章の項の最初に「学習目標」と「学習課題」が明記されている。</li> <li>・キーワードがない。</li> <li>・知識・技能に関する情報量は多くないが、標準的な量はある。</li> <li>・振り返りがチェックを入れるだけで記述がないので、段階的な評価ができない。</li> <li>・小単元の始めに小学校や他教科とのつながりが記述されている。</li> <li>・全体的に“持続可能な社会”に関する記載が少ない上、文字が太字でない。</li> <li>・巻頭にSDGsのマークの記載だけある。</li> <li>・問題解決の流れが実習例等に示されている。</li> <li>・各内容の「ふり返ろう」で、技術の最適化について記載している。</li> <li>・各内容の「私たちの未来」で学習と社会とのつながりが示されてる。</li> <li>・各内容の最後に「社会の発展」という視点で考えを文章で表現させる問題がある。</li> <li>・各内容の「技術の見方・考え方」で、評価・改善をまとめる内容がある。</li> <li>・14種類のマークで、本文と資料の関連付けをしている。</li> <li>・特別支援教育の視点に立った書体(UDフォント)を使用したり、図版やイラストのレイアウトを見やすいように配置したりしている。</li> <li>・表紙裏に、現実のものになっているドラえものの秘密道具を記載し、興味・関心を高める工夫がある。</li> <li>・具体的な学習課題が多く設定されている。</li> <li>・各内容の最後に、物作りにかかわる7人の社会人が紹介されている。(A2、B1、C2、D2)</li> <li>・ページの下部に「豆知識」で実生活に繋げる記載もある。</li> <li>・作業の手順が写真やイラストで詳しく掲載されているので、実践しやすい。</li> <li>・実習の際の「安全」について目立つアイコンで示されており、実践で注意することがわかりやすい。</li> <li>・ガイダンスの量が質・量ともに充実している。(18頁)</li> <li>・学習内容にかかわる教科書の頁数：308</li> <li>・作品例：19(A7、B7、C4、D5)</li> <li>・巻末に、学習の発展として、「統合的な問題解決」がある。(実習例：3)</li> <li>・QRコードを読み取ると動画が視聴できる。(説明文はない)</li> <li>・技術の発展にかかわる具体例が少ない。</li> <li>・QRコードを読み取ると動画が視聴できる。(説明文はない)</li> </ul>

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 13種類のマークで、本文と資料の関連付けをしている。</li><li>・ 特別支援教育の視点に立った書体（UDフォント）を使用したり、単語の途中で改行しないようにしたりしている。</li><li>・ 教科書を閉じた状態で、内容ごとのインデックスが上部にある。</li><li>・ 各ページに行数が記載されている。</li></ul> |
|--|

## 中 学 校 技 術 ・ 家 庭 ( 家 庭 分 野 )

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図2「6つの食品群と食品群別摂取量の目安」の中の、食品の例の数が他の発行者と比べて多く、実生活と結び付けたり、間違いやすい食品群の例を上げたりなど、知識の定着に役立てることができる。(P42)</li> <li>・ 表1「食品の可食部100gと1回に食べやすい量に含まれるカルシウムの量」では、日本食品標準成分表で調べる際の注意点も踏まえ確認することができる。(P38)</li> <li>・ 調理器具の写真の一覧が掲載されていない。小学校の既習事項ではあるが、復習が必要である。</li> <li>・ 金銭管理の方法の必要性が記載されており、その管理方法も、自分にあった方法があることをイラストで示している。(P199)</li> <li>・ 考えてみよう「自分らしい着方」では、学習した内容を踏まえ、実際に自分の着方をコーディネートすることで、考えを深めることができる。(P121)</li> <li>・ 幼児のふれあい体験は、幼児の施設へ訪問する、中学校に来てもらう、オンラインで交流するなど、いろいろなパターンが紹介されており、学校の実態に合わせた対応ができる。(P246～P249)</li> <li>・ 幼児ふれあい体験後のまとめでは、まとめと発表・改善だけでなく、全体共有での流れが整理されている。また、まとめ方も個人だけでなくグループのまとめ方の例も掲載されておりまとめ作業が実態に合わせて選択できる。(P253)</li> <li>・ 思考ツールの活用では7種類の手順が示してあり、課題を整理したり評価、改善したりするための手立てになる。(P6、P7)</li> <li>・ 「生活の課題と実践」の示し方及び実践例では、4ページにわたり進め方について詳しく説明している。(P272～P275) さらに各題材をテーマに6テーマの参考例が掲載されており、非常に分かりやすい。(P276～P281)</li> <li>・ 授業の流れとなる「レッツスタート」「考えてみよう」「やってみよう」では、課題設定、解決に向けてのスムーズな展開が工夫されている。</li> <li>・ 「私たちの家族と家庭生活」では、アニメや漫画などの家族が例として出ているので、興味をもって意欲的に考えることができる。</li> <li>・ 調理実習の写真がきれいで分かりやすいので「作ってみたい」という意欲をそそる。(例P78、79、94、95など)</li> <li>・ 「やってみよう」では、中学生である自分が、できる・できそうな家庭の仕事を5つの機能に分類することにより、家族のそれぞれの立場や気持ちを理解することができる。(例P24、P25)</li> <li>・ 2～6編の「学習のまとめ」では、「3 生活に生かそう」で、「できるようになるまで取り組んだこと」など3項目の振り返りがあり、振り返る時に参考となるワークシートが具体的に掲載されており、主体的に実践できるようになっている。</li> <li>・ ABCAの配列になっている。どの領域もバランスのよい構成になっている。</li> <li>・ Aが二分されているため、混乱を招きやすい。</li> <li>・ 世界の民族衣装(P125)、世界のさまざまな住まい(P175)などがあり興味深い。デジタルコンテンツでは15か国の衣装、住まいを見ることができる。</li> <li>・ 関連する内容が技術・家庭科や他教科、小学校などにある場合は、「リンク」マークで示している。「リンク」マークの後ろに、他教科、小学校などの記載があり、分かりやすい。</li> <li>・ 内容ごとに基本色を設定し、見開き左端上部及び右端にそれぞれインデックスを付しており分かりやすい。</li> <li>・ 1日に必要な食品の種類と概量の例、1日分の食事の例が写真で3食分示してあり、分かりやすい。(P43～P47)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の生活と家族の幼児の体の発達では、①寝返り②お座り③はいはい④つかまり立ち⑤伝い歩き⑥一人で歩くなど13項目の動画、基本的な生活習慣の例では、①食事（コップ）②食事（手づかみ）③着替え（大人の手伝いあり）④着替え（一人で）⑤歯磨きなど12項目の動画その他多くのコンテンツを授業の中で効果的に活用できる。</li> <li>・ デジタルコンテンツの使い方が、巻頭（P4、P5）に分かりやすく掲載されている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭活を支える施設やサービス、活動の例は、細かく表記されているが、多過ぎてかえって見にくい。（P18）</li> <li>・ 「家族に言いにくいことを伝えるコツ」として、話し方のポイントを紹介している。（P22）</li> <li>・ 折込⑦～⑧ 図10「食品成分表」では、食品の前に6つの食品群のマークが示されており、理解しやすい。</li> <li>・ 図8「身近な調理器具の例」の調理道具の写真は、基礎的な内容を確認できる。（P104）</li> <li>・ SDGsと消費生活を関連させた図があることで、自分の消費行動について振り返ることができる。（P222、P223）</li> <li>・ 二者間契約とクレジットカードの三者間の契約の掲載ページが離れているため、比較検討がしにくい。（P229とP236）</li> <li>・ 調理実習の失敗例「どうしてこうなったのかな？」は、事前学習で、準備の際に考える教材として視覚的に分かりやすい。（P115、P117、P125）</li> <li>・ 幼児の触れ合い体験後のまとめでは、P61 図14に整理されており、視点を絞りやすい。項目が10項目あり、まとめの例がP61に2つ、P67に1つあり参考になる。</li> <li>・ 「生活の課題と実践」の示し方及び実践例では、説明に2ページ、テーマ別に8テーマが掲載されている。課題、実践、評価、改善などの色彩を統一し、視覚的に流れが分かるよう工夫されている。（P266～P275）</li> <li>・ 課題と実践例の1つ、「家庭内事故の防止をみんなに呼びかけよう！」では、写真の掲載がなく、言葉だけの説明であるため、イメージが持ちにくい。（P272、273）</li> <li>・ 「見つめてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「ふり返る」などがあり、思考力、判断力、表現力などを高める手立てになっている。</li> <li>・ 調理実習の写真の色合いもきれいで、組み合わせの例がまとめて載っていたり（P134、P135）、間食の写真や作り方も載っていたりして「作ってみたい」という意欲をそそる。（P136～P139）</li> <li>・ 「やってみよう」や「考えてみよう」では、事例をもとにしてロールプレイングを体験することでそれぞれの立場の気持ちを考えることができる。（P24、P25）</li> <li>・ 各編の最後に「学びを生かそう」があり、学習したことをもとに、自分の課題を実践するようになっている。（例P148、P149）</li> <li>・ 各編の章末のまとめの「学習のふり返り」では、「3 自分の言葉でまとめよう」で「思ったことをまとめてみよう」や「自分の考えをまとめてみよう」と主体的に学習できるようになっている。</li> <li>・ ABCの配列になっている。学習指導要領の配列と同じであるため、分かりやすい。</li> <li>・ Cの分量が他の発行者に比べて多い。</li> <li>・ 消費者トラブルに関しては若年層のトラブルが増加傾向にあるため、未成年者の取消権など、生活に役立つ内容が豊富である。</li> <li>・ 子どもの健やかな成長のために（P64、P65）は、子どもの権利について法律やデータをを用いて丁寧にまとめられている。</li> <li>・ フェアトレードのチョコレートで児童労働をなくす（P256）、ラナプラザの悲劇（P257）は、消費者としての在り方を考えさせられる資料である。</li> <li>・ 他教科や小学校などの学習とのつながりは、「関連」マークで示している。マークの後に、関連する単元等の記載がある。</li> <li>・ 内容ごとに基本色を設定し、見開き左端上部及び右端にそれぞれインデックスを付し</li> </ul>

	<p>ており分かりやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品群別摂取量の目安をほぼ実物大で示している。また、1日の食事献立の例とおもな食品の概量について、3食及び間食が写真で示されており、分かりやすい。(折込③～⑥)</li> <li>・幼児の生活の家族では、言葉の発達、基本的な生活習慣、幼児の生活など8つの動画が2、3分程度でまとめられているが、細かい発達の様子について分かりにくい。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目に見えない栄養素を見てみよう」では、栄養素を目に見える形で写真やイラストにしてまとめており、理解を深めることができる。(P100、P101)</li> <li>・図8「五大栄養素の種類とはたらき」は、分かりやすいイラストで、どのような働きをするか、視覚的に理解しやすい。(P103)</li> <li>・「食べ物は体の中でどうなるのかみてみよう」は、栄養素が体の中でどのようにっていくかを特大のイラストで説明されており、分かりやすい。(P104、P105)</li> <li>・調理の基礎では「道具の種類」の写真は、基礎的な内容を確認することができる。(P120)</li> <li>・性別役割分業、ジェンダー、ウェルビーイング、女性差別撤廃条約、ヤングケアラーなど家族に関するページ数が多く、考えを深めることができるが、ここまで家族のことで時間を割くのは現実的に難しいと思われる。</li> <li>・調理のページの下段に「調理方法 Q&amp;A」があり、なぜその作業をするのかという理由が記載されており科学的根拠をもとに、実習に取り組むことができる。</li> <li>・幼児の触れ合い体験後のまとめの具体例が一部のみしか掲載されていない。レポートの抜粋のみで、全体像は小さく掲載されており、見えにくい。(P69)</li> <li>・「生活の課題と実践」では、自分の課題を発見、設定するページから始まり、進め方、取組方法の具体(調査、実験、実習中心なのか)が丁寧に示されている。(P292～P295) 実践例は、題材ごとに興味、関心、疑問に分け、生徒が実践してみたくなる内容を掲載し、写真などで、分かりやすく示されており参考になる。(P296～P303)</li> <li>・最初に身近なことから考えられる課題を取り上げ、「やってみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」など生活の中の具体的なできごとから考える課題設定が示されている。</li> <li>・自分事として学べるような導入や課題を工夫しているので、意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・各年齢期の手形と足形が載っていて、「自分と比べるとどうだろう？」などの疑問をもつことができ興味・関心を高めることができる。(P42、P43)</li> <li>・家族の例が写真ではなく絵で描かれているので、興味がもちにくい。また特殊な家族形態が多すぎて比較したり参考にしたりしにくい。(P26、P27)</li> <li>・「他者を理解すること」において、ロールプレイングが設定してある。設定例が具体的に中学生が家庭生活で実際に起こりそうな内容になっているので、考えやすくなっている。(P34、P35)</li> <li>・「考えてみよう」「やってみよう」があり、ロールプレイング等でそれぞれの立場の考えや気持ちを考えやすいようになっている。</li> <li>・各内容の「学習のまとめ」では、具体的な場面が設定してあり、それについてどのように考えるかを話し合ったり、書いたりできるようになっている。また、学習を終えて、やってみたい、もっと知りたい、深く考えてみたいことという振り返りが設定されており、主体的に学習できるようになっている。</li> <li>・ABCの配列になっている。学習指導要領の配列と同じため、分かりやすい。</li> <li>・Aの分量が他の発行者に比べて多い。</li> <li>・家族・家庭を支える経済(P25)、家庭生活を支える社会(P36、P37)などは、実生活に生かせる内容となっており、生活に困った時の知識として大切なことが掲載されている。</li> <li>・技術分野や他教科と関連する内容は「他教科」マーク、小学校で学んだ内容と関連す</li> </ul>

る内容は「小学校」マークで示されている。「小学校」マークがあることで、既習事項の確認として扱うことができる。

- ・内容ごとに基本色を設定し、見開き左上部に色で示されているが、合わせて右端にもあるとより内容が探しやすい。

- ・食品群別摂取量の目安を実物大の写真で示している。また、1日に摂りたい食品と分量(例)が写真で3食分示されているが、写真の色彩が暗く、特に野菜のフレッシュ感やご飯のツヤ感に欠ける。(P108～P113)

- ・幼児の生活の家族の幼児の体の発達では、①はいはい②つかまり立ち③歩く④積み木をする⑤はさみで切るなど13項目の動画、幼児の1日の生活と生活習慣では①食事②排せつ③睡眠④安全⑤きまりを守るなど10項目、その他も多くのコンテンツが視聴でき、授業の中で効果的に活用できる。

中 学 校 英 語

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目次の「学習の見通しを立てよう」では、1年間の題材と活動目標（GOAL）や文法事項が見開きページで示されており、何を学習するのかがわかりやすく、見通しがもちやすい。また、各 Unit の冒頭に Unit Question（Unit を通して考える問い）があり、単元名となっている。また、目標（GOAL）が「～することができる」の形で示されている。1学年の Unit 5 以降、各 Unit の冒頭には、目標（GOAL）と一緒に Unit Activity も書かれている。</li> <li>・各 Unit は基本文を「Key Sentences」として、文法事項の説明とともに示している。その下に Practice と Activity があるので、学習したことを活用しやすい。単元末の「Unit Activity」に向けて、目的、場面、状況に応じて伝え合う活動がスモールステップで設定されている。</li> <li>・学期に一度「Stage Activity」が設定され、知識や技能を総合的に扱って発信に結び付ける活動となっている。学年に応じて段階的に身近な内容から興味ある内容、そして社会的な内容を扱っていくように構成されている。また、対話文から説明文や意見文、そしてディスカッションへと構成されていて内容とボリュームが適切である。</li> <li>・現行版よりも例文や基本的な練習であるパターンプラクティスの問題が少なくなっている。</li> <li>・Real Life English では、言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動により、実生活にそのまま生かせるような様々な場面が設定されている。</li> <li>・各 Unit 末には、目標に対応した CHECK（～することができましたか。）欄があり、4段階で振り返ることができる。</li> <li>・3学年の教科書の「Unit 4 Read and Think」から分量が一気に増える（110～130語の2Part から300語程度の1Part に構成変更）ため、苦手な生徒への学習の手立てが必要である。</li> <li>・小学校からの接続は、「Unit 0」での小学校のふり取り5ページに加えて、「Unit 1～4」までは単元の最初に「Enjoy Communication」が掲載されており、小学校での学習を想起し、短い対話の活動で復習できるようになっている。</li> <li>・デジタルコンテンツは充実している。デジタル教科書の資料映像や動画、単語や本文の音声に関するスピード調節の機能、マスク機能、さらには Small Talk では動画の人物が質問することで外国人との対話をイメージした練習ができる。家庭学習にも活用でき、自身の学びに合わせ調整しながら個別最適な学びの実現に繋がると考える。</li> <li>・「学習をふり返ろう-CAN-DO リスト-」が Stage 1～3 の4技能5領域で明記されている。各 Stage のページ数も書いてあり、どのページの活動での目標達成度を確認すればよいかわかりやすい。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目次には、PROGRAM（単元）名とその PROGRAM で学習する基本文のみが書かれており、学習内容や活動目標は書かれておらず、目次だけでは何を学習する単元なのかが少しわかりにくい。各 PROGRAM のはじめに目標がセクション別に明確に示されている。</li> <li>・各単元の最初の Scenes に重要表現がまとめて提示されている構成であり、その各文表現の説明が単元後にまとめて掲載されおり（「英語早わかり Grammar Points」）、それを参照する指示はあるものの、定着のための練習がない。</li> <li>・学期末に1回ずつ「Our Project」が設定されており、それまで学んだ表現やできるようになったことを使って行う統合的なパフォーマンス活動が行えるようになっており、既習事項を使うことで定着を図るように工夫されている。また、4ページかけて丁寧に手順を踏んで目標が達成できるように工夫されている。</li> <li>・PROGRAM の始まりが会話例から始まり、その後ペア等で実際に会話するところからスタートしているため、生徒も活動に入りやすい。単元末にも、その単元で扱うトピックが示されており、生徒がさらに学習したくなるような工夫となっている。</li> <li>・振り返りは、「PROGRAM」はじめの目標と同じものがセクションごとにある。3段階のチ</li> </ul>

	<p>エック欄がページの端に示され、文字が小さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み物教材として、「エルトゥール号」「アポロ13号」「マララ・ユスフザイ」「イグ・ノーベル賞」「中村哲」等、生徒にとって興味深いもの、話題になった人物の内容であるため、幅広い分野を学習することができる。</li> <li>・各「PROGRAM」は「Scenes」→「Tuning in」→「Part 1～3」→「Review &amp; Retell」、「Action」で構成されている。段階を踏んで学習できる流れになっており、特に“Review &amp; Retell”では、イラストが掲載されており、生徒が取り組みやすく、自分の言葉で本文の内容を楽しく伝えるものになっている。</li> <li>・小学校からの接続は「PROGRAM 1」に入る前に「Get Ready」として小学校の復習ページが14ページある。「PROGRAM 1～4」で1つずつ疑問詞を復習していく構成で、定着を図る工夫がされている。</li> <li>・デジタルコンテンツについては、家庭学習で活用できそうな「単語アプリ」や文法説明動画「英語早わかり」はあるものの、デジタル教科書の語句や本文音声の機能はスピード変更だけで、巻末資料には二次元コードがない。</li> <li>・「CAN-DO リスト」が各「PROGRAM」を振り返り、「Our Project」につながるようになっているが振り返りの項目が多く（4技能5領域×できること3項目）、その項目も知識・技能に偏っている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各 Lesson の最初のページには Goal Activity は掲げられているが、明確な目標が示されていない。また、「ふり返り」は各「Lesson」最後の「Goal Activity」で「～できた。」「～しようとした。」という項目にチェックを入れるだけのもので、自分の到達度や達成度は評価できない。</li> <li>・各 Lesson の Check の基本問題はそこにはなく、巻末資料の「基本文のまとめ」の中に例文がある。デジタル教科書では例示が多いが、紙の教科書では文字や絵が小さく、使いにくい。</li> <li>・各 Lesson の構成は Part 1～3 を通して目的・場面・状況の設定が一貫しており、学習しやすい。また、Side Story や Small Talk Plus など構成に変化を付けて興味深い。</li> <li>・学期ごとに project という単元で統合的に活用する言語活動が設定されているが、3年生の Project で、ディベートやディスカッションなどの論理的思考力を高める題材を扱っていない。</li> <li>・Take Action や Small Talk Plus では、言語の使用場面に応じた言語活動ができる。Small Talk Plus では、やり方を変えながら、ある決まったトピックについて話すことができるようになっているため、飽きずに学習でき、難易度も徐々に上がっていく。また、巻末にロールプレシートがあり、現実の使用場面に近い対話練習ができるようになっている。</li> <li>・「ふり返り」は各 Lesson 最後の「Goal Activity」で「～できた。」「～しようとした。」という項目にチェックを入れるだけのもので、自分の到達度や達成度は評価できない。</li> <li>・2学年では220～240語の長文が掲載されている。分量が適切な量と比べて多いので多くの生徒には負担になるかもしれない。</li> <li>・2学年の教科書巻末には、「資料」として「Sounds つづりと発音」、「基本文のまとめ」や「Role-play Sheet」など13種類掲載されている。二次元コードにより発音の際の口の動きや音の出し方を映像で確認できたり、基本文練習で教科書の例以外のパターンプラクティスを行うことができたりする。</li> <li>・デジタルコンテンツは機能が豊富である。題材に関する動画が多く興味関心を持たせながら導入できる。また、録音して自身の発音をチェックすることができる機能や全学年分の文法解説動画などは主体的に学習に取り組むツールとして活用できる。</li> <li>・小学校からの接続は、「Starter」という復習ページが18ページ用意されている。前半は聞く活動と話す活動（やり取り）、後半は書く活動と小学校で学んだ単語や表現でまとめられており、中学校への連結を意識した学習内容・活動になっている。</li> </ul>

<p>教出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各Lessonの冒頭に、単元のGoalが内容理解（～を理解する。）と活動（～することができる）という二つで示されている。そして「Lesson」末には「Lesson～をふり返ろう」でLesson最初の「Goal」と同じ文が書かれており、4段階で振り返ることができる。</li> <li>・新出表現や基本文などは、「Key Sentence」として取り上げて記載している。Lessonは、「Part 1&amp;2」で基礎的な知識・技能の習得をして、「Part 3」では読むことに重点を置いた活動をして、「Task」「Grammar」で学んだ知識・技能の活用やまとめといった構成になっている。単元の間には、「Tips for ~ing」という4技能のコツを紹介するページがあり、生徒にとって活用しやすいものとなっている。</li> <li>・「Activities Plus」では、これまでに学習した表現を使って質問に2文以上で答える練習ができるようになっており、重要表現を使った会話練習がスパイラルに行う機会として活用できる。</li> <li>・学期に1回のProjectでは、TipやTaskでの学習の集大成としてのお題が提示されて統合的な言語活動として位置づけられているが、Projectの手立てとしての例文が少ない。また、3年生のProjectでディベートを扱っているが例文などの手だてが少ない。</li> <li>・Useful Expressionでは、場面にあった表現を学習できるが、各学年で2～3個のみと、数が少ないため、実際の使用場面をイメージしながら学習する機会が少ない。</li> <li>・読み物教材は、1学年3話、2学年4話、3学年6話だが、生徒にとっては馴染みの薄い内容が多く、難しく感じる。</li> <li>・小学校からの接続は、「Springboard 1～6」として小学校の復習ページが12ページある。また、「Lesson 1～Lesson 3 Part 1」まで小学校で学習した表現や文型、文法事項をまとめてあり、復習できる。</li> <li>・巻末資料は、2年生の教科書では9種類用意されているが、二次元コードはなく、映像資料や音声の確認などはできない。</li> <li>・デジタル教科書は、録音・再生機能があるので、自分の発音をチェックして振り返ることができるが、本文の音声機能のほかに活動用のワークシートもついているが、生徒が活用しやすいような工夫をする必要がある。</li> <li>・「CAN-DO自己チェックリスト」は、3年間のチェックリストがあり、5領域でその学年の学習到達目標が掲載されている。主な関連箇所として単元名は書かれているが、具体的な英語表現が載っておらず、自己評価しにくい。教科書の表見返しに書いた自分自身の目標についても評価することができるようになっている。</li> </ul>
<p>光村</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各「Unit（中単元）」の冒頭に、関連する4技能の内2技能についての目標（Goal）がCAN-DOリストと連動した「～できる」の形で示されている。</li> <li>・通常のUnitに加えて、帯教材として「Story Retelling」や「Let's Talk」など自分の言葉で学習した内容を説明したり、会話を続けていく発信したりする活動の工夫がされている。</li> <li>・UnitごとにGoalの活動が設定されており、興味を引く内容でもあるが、グループでアイデアを出し合ったり、意見をまとめたり、情報収集したりする必要があり、時間がかかる。</li> <li>・学期に1回のYou Can Do It!が統合的な活動として位置づけられているが、話題は良いが、表現の方法や英文の例が少ない。</li> <li>・各Unitは「Part 1～3」→「Goal」で構成されている。「Goal」では、目的・場面・状況が明確になっており、「聞く／読む」から「話す／書く」活動として取り組みやすいものとなっている。</li> <li>・読み物教材として、「わたしは何?」「ライオンとネズミ」「羽生結弦」「絵文字」「食品サンプル」「杉原千畝」「ロボット」「人種差別に立ち向かった少女」等、興味深い内容が多いが、生徒にとっては難しい内容でもあり、読み取りが難しい。</li> <li>・小学校からの接続は、「Let's Be Friends」として復習ページが19ページあるが、尋ね合う例文の配置が分かりにくく、説明が不十分で、表現活動が簡単にできそうにない。</li> <li>・巻末付録は「語形変化のまとめ」など9種類形成されているが、二次元コードは音声の</li> </ul>

	<p>「まとめ」についている4技能について「学び方」としてまとめられており、繰り返し活用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツは、本文の音声機能は豊富ではないが、本文の内容をピクチャーカードの順番を自分で入れ替えて確認したり、本文の映像がアニメーションだけでなく実写版も用意されていて、実際の会話をイメージしやすい。</li> <li>・「CAN-DO List」は、巻末に折り込みになっていて使いにくそうではあるが、「Unit」の最初の「Goal目標」と最後の「振り返り」そして「CAN-DO List」がすべて連動しているので、自己評価をしやすくなっている。</li> </ul>
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各Unitの最初に、Unit GoalとしてInputとOutputの2つが、Let's Talk、Let's Listen、Let's Write、Let's Readには「目標」があり、何を目標に学習するかが示されている。</li> <li>・各Unit末には、目標と同じ「Input」「Output」についてのCheckする欄があり、4段階で自己評価をしてふり返ることができる。</li> <li>・どの学年においても、各UnitのパートごとにTargetとして基本文とその説明が左のページの最も下の部分に載っており、右ページのSpeakの課題後にWriteの課題として「Speakで伝えたことを書きましょう」と指示されているので、生徒が取り組みやすい。</li> <li>・各UnitのExpress Yourselfのコーナーで目的、場面、状況に応じて自分のことを伝えよう練習があり、巻末に表現の例が示されているが、段階的を踏んでステップアップするような言語活動が丁寧に設定されていない。</li> <li>・学期に1回のProjectでは、いくつかのUnitで学んだことを活かした統合的な活動として位置づけられているが、言語活動が系統的なものになっておらず、3年生時では、ディベートやディスカッションなどの論理的思考力を高める題材を扱っていない。</li> <li>・各Unitは「Part1～3」→「Read &amp; Think」「Think &amp; Speak」など単元のまとめのページという流れで構成されているが、單元ごとに焦点を当てる技能が違い統一性がない。</li> <li>・小学校からの接続は、「Let's Start」として復習ページが7ページある。パートごとの目標が書かれてあり、何を達成すればよいか分かりやすいが、他者と比較して易しく、活動の分量が少ない。</li> <li>・2年生の巻末資料は7種類掲載されている。「Word Box」は分野ごとの多くの単語や語句が挙げられており、活用しやすくなっている。</li> <li>・デジタルコンテンツは、本文の「Listen スライドショー」が映像など豊富で、本物のプレゼンを聞いているようなつくりになっていて興味が持ちやすいが、本文音声については、速度調整のみで、スラッシュ機能やカラオケなどはなく、主体的な学習の助けにはならない。</li> <li>・各学年の巻末に見開きの「CAN-DO List」があり、領域別の到達目標が教科書の関連項目(単元)と合せて掲載されているが、具体的な英語表現が載っておらず、どこで学習した表現か確かめ、自己評価するのに時間がかかる。</li> </ul>

中 学 校 道 徳

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、見開き4ページに「道徳科とは」を示し、内容を3つのパート「道徳科の授業はこんな時間に」「教科書の使い方」「デジタルコンテンツで学びを広げよう」で解説している。各ページでは、学び方の例や教科書に記載されたマークの意味等を説明している。</li> <li>・ユニット学習として、「いじめのない世界へ」「いのちを考える」の2つのテーマを設定している。</li> <li>・巻末に「ABCDの4つの視点」と内容項目、教材名、学習のテーマ、関係する主なテーマ等を示している。</li> <li>・教材文に沿って考える「考えよう」、自分を見つめて考える「見つめよう」、「考えよう」又は「見つめよう」の発問をより深めて考えさせる「ぐっと深める」の3問を設定している。</li> <li>・巻頭の「道徳の授業はこんな時間に」の中に、話合いのポイントを示している。</li> <li>・教材文の下等に、思ったことや考えたことを自由にメモできる「つぶやき」コーナーを設けている。</li> <li>・教材文の終わりの「plus」に、生徒が自分で問いを立てて、みんなで話し合いながら考える「探究の対話『p4c (ピーフォーシー)』』というコーナーを設け、目次及び該当ページにマークを付けて示している。</li> <li>・「自分の学びを振り返ろう」が学期ごとにあり、授業への取組、心に残ったこと、授業で学んでよかったことについて記述することで、今後につなげる振り返りができるようにしている。</li> <li>・いじめの問題をテーマとした3つの教材でユニット化した「いじめのない世界へ」を設け、目次に色付けをしている。</li> <li>・「デジタルコンテンツで学びを広げよう」で、「朗読音声」「ワークシート」「Webサイト」「資料」「VR映像」「心情円」「映像」「他教科リンク」のマークを設定し、二次元コード等とともに示している。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、3ページに「さあ、道徳を始めよう！」を設定している。内容を2つのパート「どうやって学ぶの?」「道徳科の学びをもっと広げよう」で解説している。議論の際の「キーワード」を示したり、「持続可能な社会」に触れて発展的な学習を促している。</li> <li>・ユニット学習として、「いじめをなくそう」「つながり合って生きる」「いのちをかがやかせる」の3つテーマを設定している。</li> <li>・巻末に「ABCDの4つの視点」と内容項目、教材名等を示している。</li> <li>・「学びの道しるべ」というコーナーを設け、「教材を基に道徳的価値について問題意識を持つ問い」「自分ごととして、多面的・多角的に考える問い」「自己を振り返り考えを深める問い」の3問を設定している。</li> <li>・巻頭の「さあ、道徳を始めよう！」の中に、話合いのポイントを示している。</li> <li>・「ひろば」や「やってみよう」に、教材における話合いを促す発問を示している。</li> <li>・「道徳科の学びを振り返ろう」が学期ごとにあり、学んだ教材、一番考えさせられた教材とその理由や授業後の学んだことに関する経験を記述し、今後につなげる振り返りができるようにしている。</li> <li>・いじめの問題をテーマとした2つの教材とコラムの構成でユニット化した「いじめをなくそう」を設け、目次に色付けをしている。</li> <li>・「まなびリンク」のマークを設定し、二次元コード等を示している。</li> <li>・学習に役立つ情報をウェブサイトで見つけることができる「まなびリンク」が掲載されているが、ほとんどが教材の解説である。</li> </ul>

<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、見開き6ページで「道徳の学習を始めよう」を設定している。学習時の様々な活動や、考え方の視点、キーワード（主題名）、1年間に学ぶ内容等を紹介している。</li> <li>・35の教材を9つのユニットテーマに分けて設定している。</li> <li>・巻末に「ABCDの4つの視点」と内容項目、教材名、現代的な課題等との関わり等を示している。</li> <li>・「学びのテーマ」を設定し、「道徳的な問題を明らかにする問い」「道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い」を設けている。さらに切り口を変えた発問として、「見方を変えて」「つなげよう」を教材によって設けている。</li> <li>・第1教材「道徳の学習を始めよう」の中に、話合いのポイントを示している。</li> <li>・「道徳で大切にしたいこと」に、話合いのポイントを示している。</li> <li>・「チャレンジ問いを立てよう」に、教材における話合いを促す発問を示している。</li> <li>・教材文の終わりの「やってみよう」に、「今日の『てつがく』」というページを設け、自らの中から生まれる答えのない問いの答えを探究する学習を行うページを設けている。</li> <li>・「道徳科の学びを振り返ろう」が学期ごとにあり、学んだ教材、一番考えさせられた教材とその理由や授業後の学んだことに関係する経験を記述し、今後につなげる振り返りができるようにしている。</li> <li>・いじめの問題をテーマとした3つの教材でユニット化した「いじめを許さない心について考える」を設けている。</li> <li>・「本書で学ぶ皆さんへ」のページ内で、デジタルコンテンツの使い方を示している。</li> <li>・「本書で学ぶ皆さんへ」のフォントサイズが他のページに比べて小さい。</li> <li>・「今日の『てつがく』」に、話合いの具体的な流れを示しているが、生徒がその場で話し合うテーマを設定する展開となっており、授業のねらいにせまりにくい。</li> <li>・第1教材と第35教材が、オリエンテーションと1年間のまとめになっており、内容項目が限定されていない。</li> <li>・二次元コードが示されていない教材があり、示されていても朗読のみや資料のみとなっている。</li> </ul>
<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、見開き2ページに「道徳科での学びを始めよう！」を設定している。内容を2つのパート「どんなことをするのか?」「どうやって学ぶの?」で解説している。教科書中の教材マークの意味や、話し合う時のキーワードを説明している。</li> <li>・ユニット学習として、「いじめと向き合う」「よりよい社会を考える」の2つのテーマを設定している。特に「いじめと向き合う」ユニットは、生徒の人間関係が変化しやすい時期に複数配置している。</li> <li>・巻末に「ABCDの4つの視点」と内容項目、教材、学びのキーワード等を示している。</li> <li>・「考えてみよう」として教材文を基に考え、議論し、ねらいに迫るための発問や「自分にプラスワン」として、その授業で学んだことを基に、道徳的価値について前向きに考え、生かすための発問を設定している。</li> <li>・別冊「道徳ノート」の発問の欄が空欄になっており、教師が生徒の実態に合わせて自由に設定できるようになっている。</li> <li>・巻頭の「道徳科での学びを始めよう！」の中に、話合いのポイントを示している。</li> <li>・「学びを深めよう」に、話合いのポイントや具体例を示している。</li> <li>・別冊「道徳ノート」の中に、話合いの内容等を記述できる欄を設けている。</li> <li>・別冊「道徳ノート」に、「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」が学期ごとにあり、心に残っている教材とその理由や、道徳科の学びを振り返って考えたこと（授業で学んだこと、自分の考え方に生かされていると思うこと、自分が成長したと思うこと、これからの自分にプラスしたいこと）を記述し、今後につなげる振り返りができるようにしている。</li> <li>・別冊「道徳ノート」で、毎時間考えを記述できるようしており、自己の成長の振り返りができるとともに、道徳科の評価につなげることができる。</li> <li>・いじめの問題をテーマとした2つの教材でユニット化した「いじめと向き合う」を3箇所設け、目次に色付けをしている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元コードを示しており、掲載されている内容も充実している。</li> </ul>
学 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、見開き2ページに「道徳科で学ぶこと 考えること」を設定している。「考えを深める4つのステップ」で学び方や学習活動の例やパソコン、タブレットの活用方法を解説している。</li> <li>・ユニット学習として、「持続可能な世界のために」「色とりどりに輝く」「未来に向かって」の3つのテーマを設定している。</li> <li>・巻末に「A B C Dの4つの視点」と内容項目、教材名、主題名等を示している。</li> <li>・「考えよう」というコーナーを設け、自分の生き方に向き合うきっかけとなる発問を2問設定している。</li> <li>・巻頭「道徳科で学ぶこと 考えること」の中に、話合いのポイントを示している。</li> <li>・「深めよう」に、教材における話合いを促す発問を示している。</li> <li>・教材文の下に、思ったことや考えたことを自由にメモできる欄を設けている。</li> <li>・「学びの記録」が学期ごとにあり、授業への取組、心に残った教材とその感想、これからに生かしたいことを記述し、今後につなげる振り返りができるようにしている。</li> <li>・いじめの問題をテーマとした複数の教材を、年間を通して配置している。</li> <li>・いじめの問題を扱う教材には、「いじめ防止」マークを該当ページに示しているが、目次に示されていない。</li> <li>・「キャリア」「情報モラル」「いのち」「多様性」「環境」「家庭連携」「いじめ防止」「消費者教育」「スポーツ」「安全」「伝統文化」「グローバル」「健康」「法教育」のマークが設定されているが、そのうち目次には、3つのマークしか説明されていない。</li> <li>・二次元コードを示しているが、掲載されている内容が他の発行者に比べて少ない。</li> </ul>
あ か 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、見開き2ページに「道徳科の時間は、『自分を見つめ、考え、生きる』時間」を設定している。22のキーワード（内容項目）で学ぶことや各学年の生徒へのメッセージを示している。また、考え方について、「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「自分の生き方を考える」の3つに整理している。</li> <li>・ユニット学習として、「『いじめ』を考える」「情報モラル」「キャリア」「共に生きる社会（2・3年生のみ）」のテーマを設定している。</li> <li>・巻末に「A B C Dの4つの視点」と内容項目、教材名、現代的な課題等との関わり等を示している。</li> <li>・「自分を見つめて考える」又は「いろいろな見方で考える」発問と、「考えを深める」発問を設定しており、さらに、教材の最後の柱の部分に「自分との対話」として、自分自身や道徳的価値について問い直す発問を設定している。</li> <li>・巻頭の「道徳科の時間は、『自分を見つめ、考え、生きる』時間」の中に、話合いのポイントを示している。</li> <li>・「マイ・プラス」中に、教材における話合いを促す発問を示している。</li> <li>・「学習の記録」が学期ごとにあり、授業への取組、心に残った授業とその理由、学んだことでこれからの自分に生かしていきたいことを記述し、今後につなげる振り返りができるようにしている。</li> <li>・いじめの問題をテーマとした複数の教材をユニット化した「『いじめ』を考える」を設け、目次に色付けをしている。</li> <li>・二次元コード等を示しているが、掲載されている内容が他の発行者に比べて少ない。</li> </ul>